



かわら版

NO. 15

多度地区小中一貫校整備事業『基本構想・基本計画』策定に向けて

12月19日に第5回地域協議会を開催し、「基本計画（案）」について最終協議を行っていただきました。

会の冒頭では、11月20日の環境検討会、12月1日の学校施設検討会で話し合われた内容について、各会の代表者からそれぞれご報告いただきました。

報告いただいた内容は次のとおりです。



環境検討会

＜基本計画（案）について＞

- ・防災機能について、学校とまちづくり拠点施設との役割分担を明確にしてほしい。
- ・地域コーディネーターの拠点となる地域交流室にしてほしい。
- ・普通教室について、将来的に空き教室を別の用途に活用することも視野に入れて計画してほしい。
- ・制服や公共交通機関の利用など、今後の検討していかなければならない内容について、いくつか質問が出された。
- ・工事の際「雨水排水」「ほこり」「騒音」が心配であり、多度中小学校の健全な学習環境を確保するなど配慮してほしい。
- ・5つの地区から通ってくる子どもたちを地域でどのように見守っていくかしっかり考えなければならない。
- ・開校までに地域が協力して4つの小学校の子どもたちの交流を行っていくことが重要である。



＜事業全体について＞

- ・会の中で出された事業の用地取得に対する心配の声に対し、令和3年度中の取得に向けて、立会や調査等を引き続き進めると説明を受けた。
- ・4-3-2の学年段階の区切りについて、唐突感を感じ、学習方法も変わるのではないかと心配する意見に対し、市から「9年間の学びと育ちを子どもたちの成長に合わせて学年段階を区切るもので、小学校6年間と中学校3年間で使用する教科書等、現状と変わらない」「小中の円滑な接続を重要視した区分である」と説明を受けた。

学校施設検討会

＜基本計画（案）について＞

- ・給食センターは自校式になると思うが、運営方法をしっかり考えてほしい。
- ・来年度以降の開校準備委員会について、今の検討会のメンバーにも残ってほしい。
- ・4－3－2の学年段階の区切りは、学校施設を設計する際にゾーニングの参考になると説明を受けた。



＜事業全体について＞

- ・4－3－2の学年段階の区切りや義務教育学校について話し合う中、「4－3－2にすることで何がかわるのか教えてほしい」「教職員が理解できるような説明が必要である」という意見が出された。
- ・現状を検証し、「課題を解決するための方法の一つとして、4－3－2が必要だ」ということが理解できるよう議論を重ねていくべきだという意見が出された。
- ・開校までに、教育課程など様々な事について具体的な議論を重ね、準備していかなければならないと感じた。

各検討会の報告を受け、3つのグループに分かれ、地域協議会として最終的な意見をまとめるための協議を行っていただきました。各グループで出された意見を共有した後、基本計画（案）の最終修正については委員長に一任することとし、閉会に至りました。各グループの話し合いの概要は次の通りです。



Aグループ

- ・4－3－2の学年段階の区切りについて、設計に影響があるということなので早く決めた方がよい。
- ・4－3－2に対する教職員の意識やモチベーションを今後さらに高めないといけない。
- ・設計面と教育の中身は連動してこそ教育効果が高まる。
- ・保護者の意見として、中学校の先生に小学校段階から授業等で関わってもらえるのはよいと思う。



Bグループ

- ・4－3－2の学年段階の区切りについては、特に教職員がそのシステムに最初から対応できるかどうか現時点では疑問である。
- ・市内の小学校では高学年中心に一部教科担任制をとっており、複数の教員で子どもを見ることができている。
- ・小規模校でも学年をまたいでの授業交換が少しずつ始まっている。
- ・「地域とつながった学校づくり」に関し、避難所としての機能をどのようにするのか今後の議論が必要である。
- ・事業名にある「多機能複合化」は、必要ないのではないか。



Cグループ

- 地域協議会では、4－3－2の学年段階の区切りが有効な手段であることは、意識としてまとまっているので、今後、保護者や教職員への理解を進める取組をすべきである。
- 市内では小学校と中学校の先生の人事交流も進めており、教職員の意識として小と中の壁をなくしていく必要がある。
- 複合施設について、学童保育所と地域交流室の2つにまとまってきたので、しっかり設計につなげてほしい。
- 地域・保護者の方々が利用する際、使いやすいトイレとなるよう設計に反映してほしい。



※第5回の概要は、桑名市ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

<委員長の講評>



会の冒頭で「環境検討会」「学校施設検討会」から報告がされました。学年区分や地域交流など新たな仕組み、また用地取得状況や工事中の安全確保など実施の課題など議論が深化しています。こうした成果を踏まえ、今回は基本計画（案）の最終協議の場となりました。新たな学年区分の導入を明確に打ち出すこと、事業名を見直すことなどに加え重複内容を精査するなど基本計画として完成度の高いものとなりました。今後は、桑名市をリードするモデル校を理解いただくためにも、協議会での熱心な議論を地域住民や現場教員の皆さんに説明する機会と広報が重要です。

第5回地域協議会での協議を踏まえてまとめた基本計画（案）は、12月25日の教育委員会定例会・1月12日の市議会全員協議会にて協議した後、1月18日の教育委員会定例会での審議を経て策定に至りました。

昨年度、策定しました基本構想（案）も、今回の基本計画策定に合わせて児童生徒数などのデータを更新し、『多度地区小中一貫校整備事業 基本構想・基本計画』として、近日、桑名市ホームページにて公開させていただきます。

なお、次年度は、設計業者の選定手続きを行い、基本計画をもとに基本設計等の作業を進めて参ります。

また、地域協議会でご意見いただいた、教育課程の編成・通学方法など『開校に向けて今後検討すべき内容』については、次年度設置予定の開校準備委員会の中で、地域や保護者、教職員の方々としっかり検討していく予定としております。

今年度、基本計画策定に向けて、地域協議会・環境検討会・学校施設検討会の各委員の皆様には多大なご尽力を賜りました。紙面を通じてではありますが深く感謝申し上げます。

桑名市ホームページ：www.city.kuwana.lg.jp

ホーム→ 市政→教育委員会→教育総合(計画・統計等)→多度地区小中一貫校地域協議会について

用地取得に向けた進捗状況

12月中旬、多度地区小中一貫校の事業区域境界の立会を実施しました。

寒い日ではありましたが、地権者の皆様にはお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。皆様のご協力のおかげで、概ね確認することができました。

なお、今回の立会では、畑等の現況の物件調査・聞き取りも実施しました。

今後は、用地取得・物件補償に必要な資料や図面を作成し、地権者の皆様に個別に内容を確認していただく予定です。

引き続き、令和３年度中の用地取得を目指して進めて参ります。



多度地区小中一貫校 開校に向けての
パンフレットについて

前号にて 12 月下旬配布とお知らせしておりました、小中一貫校についてのパンフレットですが、内容の変更に伴い配布が遅れましたことをお詫び申し上げます。

基本構想・基本計画にも明記されている「次代を生きる子どもたちにどんな教育をしていくのか」や学校づくりの基本コンセプトである「つながりではぐくむ子どもたちの学びと育ち」をできるだけわかりやすく表現いたしました。

多度地区で予定されている小中一貫校は、桑名市で最初に建設される施設一体型小中一貫校です。9年間でさまざまなことを学んでいく子どもたちにとって「こんな学校になります」ということが伝わるよう簡潔に表したものとなっております。

なお、パンフレットは、基本構想・基本計画の策定に合わせて、2 月初旬に多度地区の学校・未就学施設を通じて保護者の皆様に配布させていただきます。

